

北日高、ペケレバツ岳 (1532 M)

NO. 1

2019年6月23日(日) 天候 雨のち晴れ

山行リーダー 藤木晴夫

参加者 A班 L 藤木(晴) — 藤木(仁)・森永・栗山・八重樫

B班 L 西田 — 酒井・西田(昌)・笹山・増川

C班 L 澤田 — 相馬・川村・津川・門馬

(以上 15名)

6月22日・23日・両日共、雨で草刈り中止になった為、6月16日の
パンジでペケレバツ山行が実行されました。

5:00 (岡志別公園発) ビンよりをした雨模様の中出発。

志ノ牧西側で相馬車と合流。

全員揃い、車4台で日勝峠を目指す。

8:40 (馬埧場着) 峠の視界は10m未満。

既に10台程車有り、何とか、我パーティの4台を
馬埧する事が出来一安心。

9:00 (登山口発) 濃霧の中、カッパ着用予定より30分遅れで出発。

歩き始めから尾根を登って行く。

10分程歩くと、オフゾクサイミン・コバケイ草が目につく
林に変わった。とても多く生息している。

登山道はよく整備されていて歩き易い、が
所々、急登で、涼しいはずだが、汗が吹き出てる。

それにしても、新緑が眩しい。

霧に濡れて、一層鮮やかに輝いている。

頭上では野鳥達の声がけても賑やか。

10:10 (シヤクゲの沢) 歩き始めて1時間、道の両側にシヤクゲの木が

目立つ林になってきた。シヤクゲの沢に来たようだ。

1つだけ、先がピンク色した蕾を見つけた。

数日後には、満開の花を咲かせるのだろう。



10:20(母の胎内) 小休
 直もなくとても大きな岩が現われて来た。
 尾根上に巨岩が有る、何とも不思議。
 岩と岩の狭い道を通り抜けて登って行く。
 ここが“母の胎内”と言われている所
 平坦だが、所々に穴が開いていて、足も
 取られはり様、慎重に歩く。

11:05 (1343MのJF)

小休

時々明るく、曇るものの相変わらずのガスで
 何も見えない。

ここから少し下るが、笹刈りがされて、這松の中も
 枝が払われたりと、歩も易く難無く進むことが
 出来た。

いよいよ、山頂迄 220Mの尾根に付く
 結構な急登。

数名の登山者が降りて来た。

十勝山岳連盟 20数名のパーティとの事、その中には
 知り合いの方も居られ、皆で挨拶も交わす。

「山頂は晴れていますよ！頑張ってください！」
 の方々への声に、心が踊り出す。

足取り軽くなり、登り続ける事30分。

這松の中を登って行くと這松が互れ、空が見えてきた。
 真白だった景色が一変した。

真青な空の下に北日高の山並が広がっていた。

瞬間、ガスがその景色を覆い隠すが直ぐに

又、更に鮮明な景色が目に飛び込んでくる。

這松の奥、遠くに夕張岳や芦別岳(ヒ、鬼ヶ岳)
 の姿もありました。

景色に見とれながら昼食をとり、

山頂も後にしました。



12:10 (山頂着)



ハイマツに囲まれた頂上。北日高の山脈が良く見える



チロロ岳とチロロ西峰が中央左に右手にはペンケヌシ岳が見える

NO.3

14:40(登山口着) 下りはいつも早いもので2度、休憩もとり



登山口に着きました。

先に降りた、たか子さん、森永さんが出迎えてくれました。

霧の海はすっかり消えて十勝平野が広がっていました。

登りの時間、下り1時間50分、計画通りの山行になりました。

17:20(解散) 平取温泉で汗も流し、解散式もして帰路に着きました。

リベンジも決行してくれたリーダーありがとうございました。
そして、長距離を走ってくれたドラウバーさんお疲れ様でした。
皆さん、楽しい山行ありがとうございました。

(八重樫記)



ナナカマドの花とハイマツの花